

# がん検診も忘れずに受診しましょう!

がん検診の案内は、市区町村から郵送されてくることもありますが、ホームページや広報誌に記載された情報で確認できます。

まずは、国が推奨している5つのがん検診<sup>(※1)</sup>について実施時期や実施施設等をご確認いただき、計画的な受診をお願いします。

がん検診には、メリット・デメリットがありますので双方の内容をよく理解して受診をお願いします。

(※1) 胃がん、大腸がん、肺がん、乳がん、子宮頸がん



## 【国が推奨するがん検診の一覧】

がん検診の種類	検診方法	対象年齢	受診間隔
胃がん検診	問診、胃部X線検査 又は胃内視鏡検査	50歳以上 *胃部X線検査は 40歳以上に対し実施可	2年に1回 *胃部X線検査は 毎年実施可
大腸がん検診	問診、便潜血検査	40歳以上	毎年
肺がん検診	質問(問診)、胸部X線検査、 喀痰細胞診(対象該当者)		毎年
乳がん検診	質問(問診)及び 乳房X線検査(マンモグラフィ) *視診・触診は推奨しない		2年に1回
子宮頸がん検診	問診、視診、 子宮頸部の細胞診及び内診	20歳以上	2年に1回
	問診、視診、HPV検査単独法 (市区町村が導入した場合に限り 適用される)	30歳以上	5年に1回 (追跡検査対象者は 1年後に受診)

※厚生労働省「がん予防重点健康教育及びがん検診実施のための指針」より

各自治体のがん検診窓口(右の二次元コード)から詳細をご確認いただけます。

自治体主導のがん検診の多くは、公費負担により低価格(一部自己負担)で提供されています。

シャープ健康保険組合の費用補助制度<sup>(※2)</sup>もご利用いただけますので、あわせてご確認ください。

(※2) 費用補助の対象となるかを本誌P.16でご確認ください



日本医師会ホームページ  
「各自治体のがん検診窓口/都道府県」



知っておきたいがん検診

検索